

業務

■調査・収集

国士館の歴史に関する資料の調査・収集を、広く学内外で実施しています。特に、学外に散逸する関連資料の収集や卒業生の口述記録など、多角的に資料の調査を行っています。

■整理・保存

調査・収集した文書や写真等の各資料は、整理するとともに目録化して、資料データベースを作成しています。また、収集資料を将来に継承するために、劣化の著しい資料については適切な処置を施すなど、資料の保存にも力を入れています。

■利用・公開

併設する展示室で、収蔵資料を一般の皆さまにも公開しています。また、学術利用等の目的であれば、収蔵資料の閲覧やレファレンス・サービスも行っています。

■学園史の編纂

創立100周年記念事業の一環として遂行した百年史編纂事業を基礎として、関連する調査研究の成果を継続的に取りまとめるほか、補遺的な修史事業も推進しています。

昭和18年頃 中学校制服

資料ご提供のお願い

国士館史資料室では、国士館の卒業生や関係者の皆さまから、資料のご提供をお願いしています。例えば、学生時代の写真や日記、講義の教科書やノート、思い出の品々など、形態にこだわらず、国士館に関する資料をお寄せください。

ひと口に、国士館に関する資料といっても、その対象は広範囲に及びます。国士館の歴史を知る資料は、国士館の運営に直接関連する文書だけではなくありません。国士館の歴史は、国士館に関わってきた教職員や学生・生徒、卒業生、その他関係者など、一人ひとりによって形づくられているからです。

つきましては、国士館に関する資料や情報をお持ちの皆さま、あるいはお心当たりのある皆さまは、国士館史資料室までご一報くださいますようお願いいたします。



〒154-8515
東京都世田谷区世田谷4-28-1 柴田会館内
学校法人国士館 国士館史資料室
TEL : 03(3418)2691 / FAX : 03(3418)2694
E-mail : archives@kokushikan.ac.jp



国士館史資料室



ごあいさつ

国士館史資料室は、国士館の歴史的資料に関する調査・収集、整理・保存、利用・公開の活動を目的として、2009年4月に発足しました。理想に燃えた青年有志によって創立した国士館の発展の歩みと各時代の歴史に占める本学の役割を、資料に基づいて明らかにする活動を主眼としています。

この趣旨のもと2017年の創立100周年記念事業として進めた百年史編纂事業では、『史料編』2冊、『通史編』1冊などを刊行し、学園の未来を展望する際の基礎となる歴史的事象を明らかにしました。現在は、その成果を活かした公開活動や学園アーカイブズの整備とともに、先の編纂事業の補遺的な活動も進めています。

国士館史資料室には展示室や閲覧室も設けております。どなたでもご自由に資料をご覧いただけるよう公開しておりますので、どうぞお立ち寄りください。

国士館史資料室 室長

国士館史資料室の沿革

- 1987(昭和62)年 国士館資料室準備委員会を設置
- 1989(平成元)年 総務部広報課に国士館資料室を設置(柴田会館内)
- 1997(平成9)年 『国士館80年の歩み』刊行
- 2005(平成17)年 理事長室広報課に年史編纂室を設置
- 2007(平成19)年 『国士館九十年』刊行
- 2009(平成21)年 国士館資料室と年史編纂室を統合し、国士館史資料室を設置
- 2015(平成27)年 『国士館百年史 史料編』刊行
- 2017(平成29)年 ブックレット『国士館100年のあゆみ』刊行
- 2021(令和3)年 『国士館百年史 通史編』刊行

展示室のご案内

柴田会館4階の展示室では、創立者柴田徳次郎ゆかりの資料や、創立以来の支援者、学生に関する貴重な資料を公開しています。

資料閲覧サービスのご案内

閲覧室では、収蔵資料の閲覧が可能です。閲覧資料は、国士館史資料室ホームページからも検索することができます。

開室日時：月曜日～土曜日 10:00～16:00

祝日、本学の定める休日等を除く

※観覧は無料です。

(閲覧室は月曜日～金曜日/要事前予約)

国士館の沿革

国士館は、1917(大正6)年、東京麻布に開いた私塾「国士館」に淵源があります。その立ち上げは、創立者柴田徳次郎をはじめとする、国を憂う青年有志たちによるものでした。当時彼らは、「青年大民団」と称する結社のもと、社会の改良を目指して活動していました。この事務所に「国士館」の看板を掲げ、人間形成を重んじる教育をうたい、政治、経済、哲学などの講座を開いたのが、国士館のはじまりでした。

1919(大正8)年、世田谷に校地を得て移転します。以来、中学校や専門学校などの諸学校を設置し、教育の府としての体制を整えました。しかし1945(昭和20)年、戦災で校舎は焼失し、法人名も変更を余儀なくされます。この苦難の時代を、熱意と努力で乗り越え、1953(昭和28)年に短期大学、1958(昭和33)年に大学を創設しました。以後、常に社会の要請にこたえて、教育と研究の整備・拡充を行い、学部や大学院を増設し、中学校、高等学校を含む総合学園に発展しました。

このように創立以来、国士館は伝統と特色を礎に、時代の進展を支える教育と研究で、広く社会に貢献する多くの有為な人材を育てています。



国士館創立者 柴田徳次郎

柴田徳次郎(1890~1973)は福岡県出身。早稲田大学専門部に在学時より、頭山満等の知遇を得て、有志らと青年大民団を結成し、社会改良を目指した。この活動の中から青年教育を目的として国士館を創立。以後、多くの青少年に門戸を開き、現在の国士館発展の基礎を築く。正四位勲二等瑞宝章。経済学博士。



創立期を支えた支援者たち
上段左より、花田半助、渡邊海旭、柴田徳次郎
下段左より、頭山満、野田卯太郎、渋沢栄一、徳富蘇峰



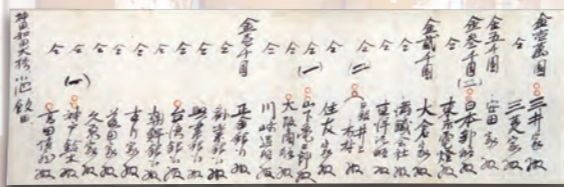
柴田徳次郎
愛用の馬具



大正5年『大民』創刊号表紙



大正8年 大講堂上棟式



大正14年 中学校校舎建築寄附金収支報告



昭和13年頃 寮内で勉学に励む学生



昭和16年 大運動会

国士館教育の原点とは・・・



国士館教育の原点を、先人の言葉から探ってみましょう。国士館が世田谷の地に移転して1919(大正8)年に開催した、国士館開館式でのこと、初代学長であった長瀬鳳輔は、「国士館の主旨」について披露します。

長瀬はまず、国士館の「主旨は極めて簡単明瞭で、即ち国士たるべき人材を養成しようとするのであります」と説明します。続いて、育てるべき「国士」像について、次のように述べます。

「士」とは、昔の「さむらい」という意ではなく、今日では「真の人格者」のことである。これに「国」が付くから「真の国家を思う大人格者」が「国士」のことである。

ところで、英国の人格者といえば「ジェントルマン」で、日本語では「紳士」と訳す。紳士は、多少資産もあり、身成りも立派でなければならないが、我々のいう「国士」は、貧富や容姿に関わらず、心さえ美しくあれば良いのだから、「ジェントルマン」より「遥かに優れている」のである。そして、国士館は、このような「真の国士」を育てるのだ、と・・・。

国士館教育が目指すもの、人材育成の原点は、この長瀬の言葉に示されています。



国士館略年表

1917 (大正6年)	1919 (大正8年)	1923 (大正12年)	1925 (大正14年)	1926 (大正15年)	1929 (昭和4年)	1930 (昭和5年)	1942 (昭和17年)	1945 (昭和20年)	1946 (昭和21年)	1947 (昭和22年)	1948 (昭和23年)	1951 (昭和26年)	1953 (昭和28年)	1958 (昭和33年)	1961 (昭和36年)	1963 (昭和38年)	1964 (昭和39年)	1965 (昭和40年)	1966 (昭和41年)	1974 (昭和49年)	1992 (平成4年)	1994 (平成6年)	1995 (平成7年)	1997 (平成9年)	2000 (平成12年)	2001 (平成13年)	2002 (平成14年)	2003 (平成15年)	2006 (平成18年)	2007 (平成19年)	2008 (平成20年)	2010 (平成22年)	2011 (平成23年)	2013 (平成25年)	2016 (平成28年)	2017 (平成29年)	2019 (平成31年)	2020 (令和2年)	2022 (令和4年)		
私塾「国士館」創立(現港区南青山)	世田谷校舎(現世田谷キャンパス)開設 財団法人国士館設立、国士館高等部開設(昭和5年廃止)	国士館中等部開設(大正14年廃止)	国士館中学校創設(昭和24年廃止)	国士館商業学校設置(昭和24年廃止)	国士館専門学校創設(昭和30年廃止)	国士館高等拓殖学校設置(昭和9年廃止)	国士館高等拓殖学校設置(昭和20年廃止)	戦禍により校舎焼失	法人・学校名称を至徳学園に変更	至徳中学校(新制)設置	至徳商業高等学校(新制)設置(昭和24年廃止)	至徳高等学校(全日制普通科・定時制商業科Ⅱ新制)設置	財団法人から学校法人に変更	国士館短期大学創設(平成15年廃止)	政経学部設置	工学部設置	大宰府校地取得(平成25年閉校)	政経学部一部設置(平成19年廃止)	法学院創設、政治学研究科・経済学研究科設置	鶴川校舎(現町田キャンパス)開設	教養部開設(平成9年廃止)	多摩校舎(現多摩キャンパス)開設、体育学部移転	国士館中学校・高等学校男女共学制に(新校舎完成)	大学院に工学研究科設置	国士館大学福祉専門学校設置(平成19年廃止)	大学院に経営学研究科設置	大学院に通信制普通科増設(令和元年廃止)	大学院に「ホリスティックシステム研究科、人文科学研究科設置	21世紀アジア学部設置	政経学部を昼夜開講制に改組	大学院に総合的財産法研究科「グローバルアジア研究科設置	工学部を理工工学部に改組	世田谷キャンパスに梅ヶ丘校舎開設	大学院に救急システム研究科設置	経営学部設置	世田谷キャンパスにメイプルセンター・多摩開設	野津田校地(現国士館楓の杜キャンパス)取得 多摩キャンパスにメイプルセンター・多摩開設	国士館創立100周年記念式典 国士館大講堂が国登録有形文化財(建造物)に登録	多摩南野校地(現多摩南野キャンパス)取得	国士館楓の杜キャンパス開設	多摩南野キャンパス開設